

---

## 日本伸銅協会～2025年重大ニュース～

---

2025年12月23日

### ① 伸銅品生産量の回復傾向が続く

1～11月の伸銅品累計生産量は、前年同期比+2.7%増加の61万トン弱となり、暦年の生産量は約66万トン程度を見通している。自動車関連向けの回復が牽引し、AI・データセンター向けの好調が続く。一方エアコン向けは回復基調ながら輸入品の影響を受けて伸び悩み、建設関係は停滞が続いている。

### ② 銅相場が国内最高値を更新

年初\$8,000後半で始まったLME銅価は\$12,000近くまで上昇を続け、国内銅建値はこれまでの国内最高値である2024年5月のトン当たり175万円を更新する190万円を付けた。

### ③ 米国関税、部品・製品に組み込まれた伸銅品も50%の課税対象に

4月2日の大統領令で米国は銅を関税措置の対象外としていたが、8月1日より部品や製品に組み込まれた伸銅品を含む銅派生品に対しても50%の追加関税が課される決定がなされた。なお、銅鉱石、精鉱、銅マット、陰極銅、陽極銅などの銅の原材料及びスクラップは今回の関税措置の対象にならない。

### ④ 金属盗対策法が成立・施行

日本伸銅協会は、昨今の銅ケーブルやエアコン室外機等の盗難頻発を受けて、日本電線工業会と合同で、警察庁に対し盗難防止の取締強化を要請。それが奏功して、「盗難特定金属物品の処分の防止等に関する法律（通称：金属盗対策法）」が6月の国会で成立・公布され、9月1日より施行された。ケーブルカッターなど用具の正当な理由なき隠匿携帯が禁止となるほか、買受け時に相手方の顔写真付身分証明書による本人確認が義務付けられる。

## ⑤ 「銅リサイクル原料輸出のHSコードが細分化」

貴重な銅資源である未利用の銅リサイクル原料の輸出実態を把握するため、今年1月1日より銅リサイクル原料の輸出品目コード（HS）が、の3種類に分類された。これにより、銅リサイクル原料輸出（約3万トン／月）の内訳は、「銅含有量99.9%以上の銅線」が1,400トン（4%）、「黄銅」が8,000トン（24%）そして「その他」が23,800トン（72%）であり、「銅含有量99.9%以上の銅線」の30%、「黄銅」の96%、「その他」の89%が中国向けであることが分かった。

経済産業省のご尽力により、来年には、「ナゲット加工した電線」、「被覆電線」のHSコードも追加され、一層、未利用銅リサイクル資源の輸出の実態解明に繋がることが期待される。

## ⑥ 設備保全担当者ネットワークの会の活性化と補修部品情報共有化の検討開始

日本伸銅協会では、「設備保全担当者ネットワークの会」において工場見学等による会員メンバー間の交流を通じ、補修部品の情報共有化の検討を開始した。2026年度からの運用を目指す。

## ⑦ 労働安全衛生活動の更なる推進

2025年度から関東側・関西側のそれぞれ開催していた安全委員会を共同開催した。また、全国7つの地区研究会での活性化を図り、相互交流も実施している。

2026年1月には小林会長による安全特別講話を開催する。

## ⑧ CFP算定ガイドラインの作成に着手

日本伸銅協会では、「CFP検討ワーキンググループ」を立ち上げ、業界標準となる「CFP算定ガイドライン」の策定に着手した。2026年度中の公開を目指す。

## ⑨ カーボンニュートラル行動計画

日本経済団体連合会のカーボンニュートラル行動計画の2025年度フォローアップに対応した。2024年度実績は、参加企業数19社、CO<sub>2</sub>排出量50.3万トン-CO<sub>2</sub>であり、目標に対する進捗率は75%となった。

## ⑩ 日本銅学会第 65 回講演大会開催

日本銅学会第 65 回講演大会が 10 月 31 日～11 月 2 日の 3 日間、兵庫県姫路市の「アクリエひめじ」にて開催された。

今大会も講演数（テーマセッション含む）が 84 件と、昨年に引き続き盛況であった。式典では第 59 回論文賞の授賞式及び 2025 年度名誉会員の推戴式も併せて執り行われた。

以上